

## 農大生が経営発展を目指す集落法人で研修を受講

【平成 29 年 7 月 20 日掲載】

神石高原町の集落法人（農）高原の里まき（山内輝幸（やまうちてるゆき）代表理事，組合員 59 名，主食用水稲 16.6ha，ぶどう 0.5ha）では，今年度水田を基盤整備し，新たにぶどうを 0.45ha 新植する計画があり，経営規模の拡大に併せて常時雇用に対応した体制整備を進めています。その一環として，6 月 12 日から 2 週間の日程で，広島県立農業技術大学校の学生を研修生として受け入れました。

研修を受けた落葉果樹コース 2 年生の熊谷祐一（くまがいゆういち）さんは，将来ぶどう栽培に携わりたいことを希望しており，今回の研修を通じて，農大で学んだ栽培技術を実際の作業で再確認することと併せて，広い面積で効率的にぶどう栽培を行う大変さを学びました。また，集落法人で重要な作業となる水稲の栽培管理作業についても学びました。

一方，法人は，若い人を雇用した際に，世代の異なる構成員やパート雇用の人とのコミュニケーションをどのようにして円滑に促し，溶け込めるようにするかなどの課題を把握することができ，今後の経営発展における雇用就農について勉強になったとのことでした。

当法人では，今後農大からの研修生を水稲とぶどうの収穫期にも受け入れる予定です。



【ぶどうの新梢管理をする熊谷さん】

情報提供元

東部農業技術指導所